

## 庄内情報

3月10日に第1回庄内協同ファームの生産者集会を開催しました。有機認証・環境活動に取り組んだ成果を各、生産者が報告しました。

又、A F A S(株)より徳江氏、九州東海大学の片野氏から講演をしていただきました。



ようやく暖かい陽気になり、おくれた作業を取り戻すように、土おこしのトラクタ - が走る。



庄内平野の雪解け。3月10日頃の鳥海山。



へちま圃場まわり。9月1日



えだ豆のほ場まわりをしました。7月28日



有機認証の検査を受けました。7月3.4.5日

5月30日合鴨を有機ほ場に放した 志藤。  
幼鳥のため人が近ずくと怖がってまだ、逃げ回っていた。6月2日の昼ころ、ひと仕事を終え  
巣で休んでいるかもたちを撮影。  
巣の周りには、電線をはり夜間電流を通して幼鳥が、いたちや狸などに襲われるのを守っている。  
これから、どんどん大きくなり活躍する期間は7月中頃まで。  
画面をクリックして、可愛いかもをみて下さい。(280k)



## 4月芽だし作業が始まる - -



3月8日。小資源・環境保全型稲作学習会を開催  
小資源・環境保全型の米作り実践に向けての学習会が、3月8日三  
川町商工会議所を会場に、  
組合員、協力組合員の他にも多くの興味ある農家の方々含め40名  
ほどの参加で講師に民間  
稲作研究所、の稲葉光圀氏を迎えて行われました。

学習内容は有機栽培に取り組む意義・重要性と有機無農薬栽培の米  
作りは、今や誰でも出来  
る技術が確立している事を唱えられ、抑草・除草対策、病虫害対策  
の具体的方法が紹介されま  
した。そして、今や有機・無農薬栽培でも多収穫は十分可能である  
事を図表に示しながら未来に  
希望の持てた有意義は学習会でした。  
先生を囲んでの懇親会は一人一人有機・無農薬栽培の失敗談、苦労  
話しを含め自己紹介がな  
され和気あいあい、大変盛り上がりしました。



1月16日。庄内で毎年恒例になっている「日本海寒鱈まつり」が  
鶴岡の商店街で開催され、  
庄内協同ファ-ムも地元交流の一つとして参加しました。



色づき始めた庄内柿の生育状況を確認するため、10月15日に庄内砂丘地から羽黒山近辺  
まで庄内柿と干し柿の生産者がほ場を見て回りました。栽培する生産者が広がっているた  
め、色づき具合や大きさなどに多少の違いがありますが今年の病虫害の発生具合や対策結果  
を、その場でそれぞれが話して、栽培技術の交流をはかりました。

庄内柿..... 生産者 志藤正一

今年も各地で初雪の便りが聞かれる季節になりました。ここ庄内も南の月山、北の鳥海山共  
に18日に美しい初冠雪を見ることが出来ました。夏の記録的な暑さに人も稲も大きな影響  
を受けましたが、幸い平核無は順調な生育を見せ、着色の遅れは少しあるものの肥大もすす  
み、甘みのある柿が期待できそうです。私の園地も、土着菌によるぼかし肥散布を始め、  
土つくりを行ってきた成果で柿の木が大変元気な生育をしています。農薬を出来るだけ少な  
くし、天恵緑汁の葉面散布で病気も殆ど出ていません、甘みの乗ったおいしい柿をお届けで  
きると思います。これからもさらに安全でおいしい柿を作るよう努力していきたいと思いま  
すのでよろしくお願いたします。<10.25日>

[生産者の写真](#)

---

台風の影響を心配する 早い収穫期を迎えましたが、その後の連日の雨で本格的な稲刈り作業が遅れています。 9月23日にようやく晴れ上り、接近する台風18号の影響を避けるため、一斉に刈り取り作業に入りました。24日夜半に庄内地方を通過した台風は、風速25~30メートルの暴風とフェーン現象による高温をともない北上しました。庄内では、強雨はなかったものの、まだ刈り取りが終わらないところも多くあり、稲の倒伏や果樹の落下などの被害が心配されています。9月24日：三川町(事務所近く)での[刈り取り作業](#)。

---

早い収穫庄内では、平年の稲の刈り取りを9月20日から25日頃に始めていますが、今年は12日から15日の間に山間部をのぞいた地域が始まります。1週間から10日は早い収穫期になります。先日、各地域での部分刈り取りが実施されました。収穫量も平年よりやや多い(はえぬき)ものや平年並み(ひとめぼれ)と、病害虫が比較的すくなかったわりに夏の高温がたたってせいか、豊作とはいえない作柄のようでした。稲刈り前の9月11日にはたんぼまわりを行い、作柄や稲作技術の検討を行いました。

## [写真](#)

---

[「たんぼの様子」](#) 8.21日稲の写真があります。

---

梅雨明け後から雨の降らない日が続いています。畑の作物にも大分疲れがでてきましたが、作物に水まきしたり、畑へ灌水したりして、しのいでいます。枝豆やメロンも生育が急いでいて、例年より1週間ほど早まっています。枝豆は例年になく良い生育状態が続いていますが、時期をずらして定植したものの収穫時期が重なったりで出荷調整がむづかしくなってきました。猛暑にまけないで頑張りたいです。 8月11日

[「八月のへちま畑」](#)の写真があります。

---

**だだちゃ豆、圃場まわりを行う。** 7月24日に庄内地方の梅雨が明けました。これから夏本番。7月26日に組合員が栽培する枝豆の畑を回って、今年の作柄やでき具合を見て回りました。よい天候に恵まれ、例年になく、上作でおいしい枝豆に生育しています。

こちら庄内地方は平年並み7月24日に「梅雨明け」宣言が出され暑い日々が続いて、海山とも避暑を求める人たちで、にぎわっています。"だだちゃ豆"作りは冬季間の種子選別から始まり、種まき、畑への堆肥散布、耕耘、整地、植付け、除草を兼ねた株元への土寄せ、などなど7月末まで愛情を込めて育て、8月上旬から収穫が始まり9月上中旬まで続きます。今年からは、庄内協同ファームの"だだちゃ豆"は、すべて無農薬・無化学肥料栽培のものになりました。みなさまに美味しい"だだちゃ豆"を安心して、召し上がっていただける事と思います。今年の"だだちゃ豆"は春からの好天に恵まれ味、品質とも上々、"だだちゃ豆"特有の甘味と香りをご賞味下さい。

庄内協同ファーム 枝豆部会・生産者 一同 [写真](#)

**圃場（田んぼ）まわりを行う。** 6月4日に、この時期恒例になった組合員の田んぼをみんなで見てまわった。

目的は作付け後の苗の成長や、今年取り組んだ栽培方法の成果の確認。今回は種子消毒を農薬を使用しない

温湯消毒に切り替えた生産者が多くいて、温湯消毒の仕方や、その後の苗の生育状況、田植え後の肥料のや

り方など、技術的課題の検討が、その晩行われた反省会の話題の中心でした。 [写真](#)

---

たんぼの[撮影](#)：199.5.18

### 水田"とろとろ層"による除草対策

米糠、大豆粕等を散布した直後の田んぼです。

田植え後に苗が根づいてから、米糠や、大豆粕を発酵させたものを散布し、田んぼの表面を微生物の力を借りて、とろとろ状態にして雑草の発芽や根づくのを抑える農法です。

数年前から無農薬、有機栽培米の栽培方法にとりいれられてます。5月29日

---

この後、機械で植えた後に、ほ植（植えたところに、ムラがあるところを手で植え足す）作業の[写真があります](#)。5月12日

連休明けに、良い天気が続く平野部で[田植え作業](#)が始まりました。5月8日

---

5月連休前の[代掻き作業](#)。田圃の中を整地して、田植えをやりやすくすると共に苗の根着きをよくします。4/30日

---

4月9日頃まで低温が続く、荒れた天候も4月10日には穏やかな春の陽気となり、遅れた春作

業に追われています。平野部では、稲の種まき作業もおわり育苗箱にまかれた種が育苗ハウ



ス

に移され、5月連休前後の田植え前まで大事に育てられます。4 / 1 2 日

---

3月29日

季節はずれの雪が庄内地方に降り、平野一面白の世界となってしまいました。春作業の土乾燥や籾の塩水選などの作業も一休みといったところです。

さて、2月から3月にかけての所沢のダイオキシン汚染問題は消費者や私たち生産者へ「食の安全性」について問いかけをしました。

特に流通する側では、その対応が様々で、根拠がなく売り手の論理を通そうとし、取り扱いを直ぐに中止にした企業や、生産者と共に問題の解決を図ろうと呼びかける流通団体など、その対応に差がありました。

安全な食を作るためには、生産者のコストも、社会的なコストも上昇します。その手間や日本の気候では、完全な有機栽培の農産物の生産は現在の技術では、今のところ多くを望めないです。

認証の法制化をまえにして制度の一人歩きを防ぐためにも、もっと多くの人が生産現場に足を運び、現実を知る事が重要だと考えます。

---

1月17日 鶴岡「寒鱈まつり」に参加して。

曇り空ながら、ひさしぶりの良い天気で沢山の人が当日は集まりました。(約2万人)私たちは10名が参加し、餅の蒸し方、つき方、売り方・呼び込みに役割を分担して切れ目ない人出の中、自慢の餅を食べてもらいました。

[画像を見る 1](#) [画像 2](#)

---

新年あけまして、おめでとうございます。

今年もよろしくお願いします。

年明け早々の大雪で、庄内平野は銀一色の世界となりました。日本海からの強い寒風に舞いあがった粉雪は「地吹雪」となり交通網が寸断され、私たちも2倍以上の時間を要して事務所までたどりついていました。

こんな中でも、地域では名物の「どんがら汁」をメインにした「寒鱈祭」が行われます。鶴岡市では17日(日)に開催され、私たちも餅つきをしながら参加します。お近くの方は是非、遊びに来て下さい。 1月14日

---

「どんがら汁」とは

冬に捕れた鱈を、骨やあらも全部鍋にいれて、味噌じたてで煮込む郷土料理

です。

---

一年間のご支援ありがとうございました。 98年も年の瀬を迎えました。農にたずさわるものには異常な天候に振り回された年でしたが、皆様との産直提携の暖かい絆を頼りに乗り切ることができました。心より厚く御礼を申し上げます。どうぞ、良い年をお迎え下さい。

代表理事 斎藤健一

---

11月18日に積もり続ける雪に驚かされ、1ヶ月も早い冬の到来にがっかりしましたが、12月は積雪のない毎日でした。

今年も残すところ、2、3日になり穏やかな日差しが、庄内平野をあたたくつつんでいきます。時でもない雪、珍しい暖かさ、日々変わる天候にふりまわさつつ、深い冬に進んでいきます。

12月28日

---

### 11/22日記

11月18日より突然降り出した雪がやみません。例年、この時期に雪が降ることはあっても、せいぜい5~10センチ程度、2、3日もすれば消えてしまうのです。ところが今年の雪はチョット違います。19日の朝の積雪はなんと30センチ、人も車も、ハウスや畑なども殆ど冬の準備していないところにこのドカ雪です。真冬ならさして驚きもしない雪の量ですが、ゴング前に食らった先制パンチに大慌て、豚舎やハウスを見回ったり、道路を除雪したり、車のタイヤの交換で、一日はあっという間に過ぎてしまいます。柿の収穫が終わったばかりの我が家では、40aほど植えてある青豆も、白菜や大根人参などの自家用野菜の殆どが一面の雪の下です。日本国中野菜不足のこの時期になんともったいないことか。雪の降り始めから5日目、毎日降ったりやんだり積雪は既に40センチ近くに達し、今日あたりようやく晴れ間が覗いています。つい1週間前までスニーカーで柿の収穫に汗を流していたのが嘘のようです。

今年の柿は豊作でした、8月9月が曇天でも温度が高かったのが幸いしたのか粒が大きく平年の30~50%ぐらい収穫増です。収穫期の天候が良く、品質もこれまでになく良い様です。「雪の中での柿の出荷も珍しいネ」と妻と二人で話しながら、10日間ぐらいかけて脱渋した柿をダンボール箱に詰め、最後の出荷作業に追われています。<志藤>

---

庄内平野に11月18日初雪が降りました。

水分を含んだ重い雪が一晩中降り続き、積雪は39センチに達し雪の重みでビニールハウスの倒壊、倒木、電線の切断などが相次ぎ、交通もマヒしました。初雪が、これほどの大雪となったのは酒田气象台測候史上はじめてのことだそうです。今も雪は降り積もり、このまま根雪になってしまうのではと心配しています。

10 / 29 日記

10月中旬に飛来した白鳥の田圃の中で食物をついばむ姿が、見る人を和ませてくれています。最上川が日本海に注ぐ、酒田の河口付近では白鳥の餌つけをして、今では毎年7千羽以上の白鳥の飛来があります。その白鳥が、近年は田圃にも群をなして、遊びや食事に集まって来ます。白鳥は雑食ですが、田圃での食事は籾や落ち穂などです。<白沢>

### 田圃の白鳥

10月26日に東北農政局が発表した(10月15日現在)山形県の作況は、101のやや不良の583kg/10aでしたが、庄内は、98のやや不良でした。まだ籾すり作業も完了していないこの頃ですが、手応えとしては、昨年より半俵から1俵の減収の感じですか。  
<五十嵐>

1998.10.13

10月13日、山間部を除いて、庄内地方は、ほぼ稲刈りが終了しました。9月下旬の不順天候予想で、稲刈りの遅れが心配されましたが、稲刈りはおおむね順調に進み、田圃は今、コンバインが活躍したクローラの跡を残して静かな休息の時期に入っています。梅雨が明けないまま夏が終わり、出穂期、稲にとって一番お日様の光が欲しい8月の日照時間はなんと平年の半分以下、毎日毎日雨が続き、これで本当に開花はできるか、受精は大丈夫か心配したものでした。しかし、何千年にわたって主食として日本民族の命を支えてきた稲の生命力は大したものです。収穫量こそやや少ない(-10%位の予想)けれども今年も私達に確かな秋の実りを与えてくれました。稲刈りが終わってほっとするのもつかの間、変わりやすい秋の天候を気にしながら、今度は柿の収穫や、秋野菜の取り入れが始まります。  
<志藤>

### 刈り取り後の田圃

1998.10.08

遅れていた平野部での稲刈りも、晴れ上がった10月3日~6日の間に刈り取りをして、9割ほど刈りあげて一段落しました。山間部の羽黒町などはこれから刈り取りに入っていきます。<白沢>

### 倒れた稲の画像を見るjpg

1998.10.1 庄内地方の平野部での稲刈りは、例年9月20日前後~始まり25日頃にピクをむかえ10月の始めには一段落するのですが、この時期になっても、まだ稲の刈り取りが平野部で半分くらい残っています。このところの連日の雨と昨日の台風による

強い風で、倒伏した稲もだいぶ出てきました。刈り取作業に苦労しています。東北の中では比較的良かった庄内の作況状況も急降下し、特に低農薬で栽培した稲は下降が厳しいようです。収穫された稲の籾の量も少なく、例年になくクズ米の量が多くでていて、もち米を早く収穫して籾とりを終えた組合員から平年の15%減くらいとの報告がありました。<白沢>

---

1998.9.26 9月22日から一時中断していた刈り取りを、26日前後から再開しました。

9月25日東北農政局が発表した9月15日現在の東北全体の作況指数は、96の「やや不良」だった。県別では岩手95、宮城95、福島95、青森96、秋田98、山形100です。気温日照が9月上旬から平年を上回って推移したが、この間の豪雨などの気象被害が平年に比べて多かったため。9月16日以降も台風がきて天候が悪く、さらに作況指数が下がりそうです。9/26日からは稲刈りを再開した。<白沢>

---

1998.9.22 9/21日から、「雨のため稲刈りは一時中止。」

9月20日は32度の高い気温になって絶好の刈り取り日となりました。庄内平野の平野部では稲刈りを一斉に始めたが、翌日の、午後からは台風の影響で、雨が降りはじめ収穫作業も中止になった。刈り取り時期に合せたような、連続的な台風は各地に被害をもたらしている。庄内は太平洋側の被害と比べるとまだ少ないようだが、風雨が長引くと収量、品質に大きく影響を与えそうだ。

<白沢>

[稲刈り中の画像を見る](#)

---

1998.9.17

9月5日～13日までは夏が戻ったような好天気。庄内地方の遅れた稲の登熟も一気に色づき穂が脹らみました。16日の台風の影響も少なく、秋気配が濃厚になってきました。台風当日は、まえから予定した田圃巡回を10名で実行し、それぞれの成育と栽培技術の交流をしました。夜は農薬についての勉強会をして、環境ホルモンや代替え農薬について調査をしました。<白沢>

---

1998.8.15 稲の生育状況

春先から天候に恵まれ順調に生育した稲も、7月下旬の集中雨といつまでも終わらない梅雨の影響による、寒さと日照不足で開花期を迎えたこの時期に不稔が心配されてます。それでも、水害や冷夏の報道される東北各地と比べると、比較的庄内はいい方なのですが、夏の農産物全体が例年になく早い時期に生育し、出荷ができ8月の好天も期待していた



のですが、思わぬ天候の変化に戸惑いと心配が広がってきました。

8月10日に梅雨があけないのは12年ぶりで、5年前の冷害の年は、秋になってもあけないでしまいました。最近の気象予測は夏天候がこないで、このまま「梅雨前線から秋雨前線へ」と報道されはじめてきてます。お米の作況も落ちてきて、全国平均は「97」で山形が「やや良」になっていますが、収量は当初、思っているほど望めない状況に推移しているようです。

私たちのお米は、今のところ病害虫もなく出来の良い状態にある分だけ、今後、天候の回復を祈るばかりです。稲刈りは9月15日頃に始まり、9月20日前後にピクを迎えます。

10月からは新米での供給を始める予定ですが、収穫量が少ないのは確実の様相をしています。＜白沢。

---



[表紙のペ - ジに戻る](#)

[目次ペ - ジへ](#)